

超音波式害獣忌避装置

鉄道車両搭載型を開発

モハラテクニ

【前橋】モハラテクニカ（群馬県高崎市、茂原純一社長、027・352・1700）は、超音波式害獣忌避装置「ユーソニックII写真」の鉄道車両搭載タイプを開発した。4月中旬に実証試験を始める計画で、効果が

認められ次第、事業化に踏み切る。山間部などで課題の鹿と車両の衝突事故に対し、鹿が嫌う超音波帯の音を発し、追い払う。事業化から3年後に年間1億円の売り上げを目指す。

これまで同装置は畑や

ゴルフ場、養鶏場などに設置していた。最高時速100キロで走行する列



車の前方300メートルまで害獣忌避効果を維持するため、出力100ワットのスピーカーを12個搭載し、出力を従来比10倍に高めた。雨天を考慮し、反射板を採用するなどして防水性能も強化した。価格は最低200万円の見込み。

実証試験は開発依頼主である鉄道会社で実施する。板金業のモハラテクニカは2008年にユーソニック事業を立ち上げ、10年は2500万円を売り上げた。